

繪本通俗三國志

四編

四

122
74

東京圖書館

和書門

小說類

122
二六函

架

七八號

七五冊



繪本通俗三國志四編卷之四

目錄明治十年交換

孔明定計畧四郡

趙雲計取桂陽城

黃忠魏延獻長沙

孫權大戰合肥城

幼常。又深く軍書を明かす。あるを召て。ちかひを
 する。玄德使をさせ。入る。馬良。怒ち。きかたの礼を
 して。高坐し。著。玄德。長久の計を問ふ。馬良。曰く。襄陽
 城の敵を受の地なり。久く守り。幸。劉琦の病
 母。劉琦。この城の主。曰く。大将。たが。病の
 固く守。都へ表を奏。劉琦。荆。の刺史と
 民の心。懐て。南の四郡。攻取。金銀。兵糧
 野。根本。固。長久の計。玄德。曰く。曰
 四郡。馬良。曰く。武陵の太守。金旋。長
 沙の太守。韓玄。桂陽の太守。趙範。零陽の太守。劉度。
 四郡。得。魚米の便。通。長。

玄德。喜。四郡。何。問。入。を
 馬良。曰く。湘江の西。零陵。近。零陵。武
 陵。取。湘江の東。桂陽。取。長沙。更
 玄德。馬良。曰く。從事。官。伊籍。副官
 孔明。南。劉琦。襄陽。城。入。関羽。と
 兵の手配。定。零陵。郡。攻取。張飛。先陣。
 趙雲。後陣。玄德。孔明。中軍。都。合。勢。一。万
 五千余騎。建安十四年。春。正月。打起。関羽。荆。の城
 各。封。糜。竺。江。陵。城。由。子。劉。延
 太守。劉。度。女。德。の。勢。入。由。子。嫡。子。劉。延
 計。後。劉。延。敵。人。ぞ。怖。

正のころに、其の内、刑道榮として、夫不當の大將あり、重き六
 十介の大戦は、はるかに、さきかゝりて戦ひ、孔明も、関羽、張飛
 も、いふと、ぐく首を取ん、劉度さるる、刑道榮と、り、平
 り、まゝ、刑道榮も、いふと、のまが、能く、あつて、胸中の武藝、いふ
 の、廣頗、李牧、も、あつて、勇、いふ、劉度、も、いふと、あ
 たり、の、いふと、あつて、劉延、精矢、二万余騎、付、刑道榮、と
 先手、として、城下、と、三十里、と、あつて、山、いふ、水、いふ、流、て、陳、と、え
 たり、孔明、兵、と、いふと、ま、た、いふ、陳、と、取、む、いふ、ま、刑
 道榮、馬、と、いふと、大、昔、あ、び、て、反、國、の、賊、あ、ん、と、いふ、界、と、侵、と、い
 たり、り、孔明、中、軍、と、いふと、一、輛、の、四、輪、車、と、いふと、ま、せ、頭、と、編、巾、と、
 いふと、身、と、鶴、筆、と、被、て、手、と、肘、と、いふと、あ、つて、刑、道、榮、と、指

ま、孫、と、いふと、南、陽、の、諸、葛、孔、明、あ、り、曹、操、百、万、の、勢、と
 率、ひ、ま、た、り、と、いふと、南、陽、の、諸、葛、孔、明、あ、り、曹、操、百、万、の、勢、と
 も、生、と、回、る、と、いふと、汝、水、あ、ん、と、いふと、降、伏、せ、と、い
 たり、刑、道、榮、と、いふと、刑、道、榮、と、いふと、赤、壁、と、曹、操、と、破、り、
 たり、呉、の、周、瑜、が、計、あり、汝、あ、つて、詐、と、いふと、人、と、いふと、
 の、口、と、動、せ、と、いふと、大、あ、つて、打、振、馬、と、乗、り、て、討、く、と、いふと、孔
 明、車、と、回、り、と、内、と、入、陣、門、と、閉、り、と、刑、道、榮、と、いふと、近、つ
 き、り、と、陣、勢、又、左、右、と、いふと、二、手、と、いふと、逃、走、る、刑、道
 榮、と、いふと、中、央、と、いふと、二、旗、の、黄、あ、つて、旗、統、権、と、いふと、走、り、と、い
 たり、孔明、あ、つて、馬、と、いふと、馬、と、いふと、鬼、山、の、腰、と、い
 たり、黄、あ、つて、旗、と、回、り、と、忽、ち、陣、勢、と、いふと、張、孔、明、と



孔明刑道榮計趙雲生捕

孔明刑道榮計趙雲生捕

車へ入るべきして。一人の大將矛をよみたる。馬をよみたる。人
 張飛ありと名乗その声雷のごとく。たゞちよ邢道榮を討てくる。
 邢道榮怒り罵りて。令てまかりて二三合戦ひり。うたやうとて
 走りぬる。張飛とてまきと追うけ。邢道榮馬を打て走らぬ。
 両方より伏兵一度ふ起り。刃色にぞ攻なり。一命とまきと戦
 ちりく。逃ま出たるあり。一人の大將行前とまきと。常
 山の趙雲あり。あつらふく降参せよとよびり。りまて邢道榮の
 べきやうあり。馬より下と地みひきぬば。趙雲まをひく陣中へ
 りりまて。玄德大いひひ。軌て奔よと宣へ。孔明きうまのまて
 とち。邢道榮を問て曰く。汝も一劉延と生取きたらば。ま
 かまて。汝も重く用ひん。邢道榮曰く。即時は行と生捉きたる。

孔明が曰く。いりある計とめり。生捉べき。邢道榮が曰く。某は
 校し。自のよく計とあさん。夜み入る。劉延が陣へ攻来たる。
 某もあさん。内應せん。劉延も一槍とあさん。劉度のいひ。
 か降参せよ。玄德の曰く。ま言まの言。某もあさん。ま首と
 勿く。孔明が曰く。邢道榮の詠とや。大將のあさん。ま計
 しまたが。今夜も一劉延と生捉あさん。ねとまきと。よく用ひん。
 と。即時は校し。回り。邢道榮が陣を回り。劉延ま
 みへて。右の趣と詠る。劉延が曰く。いひ。一と敵と拒ぶべき。邢道
 榮が曰く。敵の計と就く。却る計とたり。今夜陣の外と兵と
 伏て。陣中へいひ。あさん。旗あさん。と立孔明。夜討きたらば。劉
 色と生捉ん。劉延大い。ま言ひ。女と伏く相待ら。ま案の。ま其夜

行ん張飛とて出で曰く某は終つて行ん孔明が曰く二人の
 方そいひてまゝ人あまきと早く合たまはつた趙雲と用ひて張
 飛が曰く某は行んとて極く人あまき用ひぬが孔明が曰くま
 うらづ闖とて行の趙雲張飛とてと闖とてりらる。趙
 雲先といふ字と拵るまは張飛大い腹を立て曰く其他人の助と
 たのまも。たる三千余騎と引て忽ち桂陽城を取ん趙雲が曰く
 某もた一人三千の勢も城と攻り打負の軍法で被らるん
 孔明がよとと軍令状と書せ精兵三千余騎とあらん趙雲
 まのけしと張飛いひて服せざりらる。と玄德大い退り
 趙雲のよとまび三千余騎と引てまも桂陽のみせむり人の由
 さまだめて沙汰ありらる桂陽の太守趙範めいんと急に認

将とのめと計と裁も元来手下の陳應鮑龍と二人の大
 将のくも力よの常と超と陳應よく飛又とははひ鮑龍は
 虎と持まき二人ひとく出て曰く玄德の漢と反く逆賊あつと
 曹孫と敵とあま某終つて先手まきと生捉んと太守
 趙範が曰くも劉玄徳の漢の天子の皇叔とてと孔明
 明計深く関羽張飛の勇あたるものあり況やいよを来る
 趙雲といふものへつめと常陽の長坂まき曹孫が百方の勢と
 け破つと。人あまきと行がとてとホいうと拒ぐとと得ん
 其打向つて降泰まきと陳應が曰く甲斐あまきとと宣とのれ
 趙範といふとと得と陳應と大将と三千の勢と引く城外と

陣と取せり。趙雲のまをりて陣勢をひき取り、陳應飛又
てひねりて陣馬を生かす。趙雲大音のびて曰く、君
劉皇叔のまをりて荆王の弟を公子劉琦となせしけり。國中
の民と安んずる人汝はあんど降らざる。陣應まをりて。あざ
笑ひある。女徳を劉琦の人のまをりて。曹丞相に従へり。と
呼りて。趙雲大の怒り鎗をひねりて突く。陳應の飛
又やめて馬をいへ戦ひ五六合ありて。あざをりて走りけり。
趙雲まをりて追まると陳應利回し。飛又やあざ付た。趙
雲うなぐ用心し。左の手をう受と却り陳應まをり付る
と陳應まをり身と避んと。趙雲が馬のまをりて。長ま
臂のべぐ。陳應のうの棚と大地ふりて。あざりて。兵の口八

方は散乱と。趙雲まをりて陳應と縛り本陣まをり。汝あまの
まをりて。敵せんと。首を斬る。城中の向りて太守趙
の益あり。あまのまをりて。免とせむ。城中の向りて太守趙
範は降参とせむ。ちよりのまをりて。放し。陳應罪を謝し。と
鼠の窟がごとく。頭をうへて城まをり。趙範を見。右の由を告げ
れば。趙範白く。本より降参せん。汝まをりて。戦ひ
とあり。あまの右のどり。陳應と追出。卒に十騎あり
り。引て降参の由をひきま。趙雲のまをりて。入上。賈乃
礼とあり。酒とせむ。酒とせむ。酒とせむ。酒とせむ。酒とせむ。
ひて趙範のまをりて。將軍の某とあり。趙姓あり。ひて定
て一家の好むあり。あまのまをりて。是のまをりて。上り。あまの義と

新編通鑑綱目卷之四

趙雲
當此危急之際
尚能如此
誠忠臣也

趙雲



趙雲之清氣
折衷之義
怒て打倒す

趙乾

趙雲
當此危急之際
尚能如此
誠忠臣也

樊氏





金瓶梅詞話卷之四



射
金旋
德
降
泰

金瓶梅詞話卷之四

十三

めぐる金旋をば城の中へ入る人をもつて矢倉の上より雨降る
 とく矢を射るけ鞏志城上より立あつたまは汝天の時とあつた
 のまきの敷きとれり民をたぐひて女徳を降まのりい
 も果をよく射て兵を射る金旋面を射られ馬よりさるさる落
 けると軍士首をみれば張飛を献を鞏志門をひいてとく
 降奉しけま張飛をみれば城へ入れて民を安んた鞏志を使
 しく桂陽城を遣し女徳の由を報を女徳とれれば武陵
 みまはり鞏志をみれば太守とく三郡を治りしまづの内
 深く喜び書簡を荆及びの城を遣して関羽の喜びを告めし
 関羽回書とくへ三郡を治りしと云張飛大功を立てたり
 君も兄弟の情をみれば其の長沙郡を攻めせしむる名を

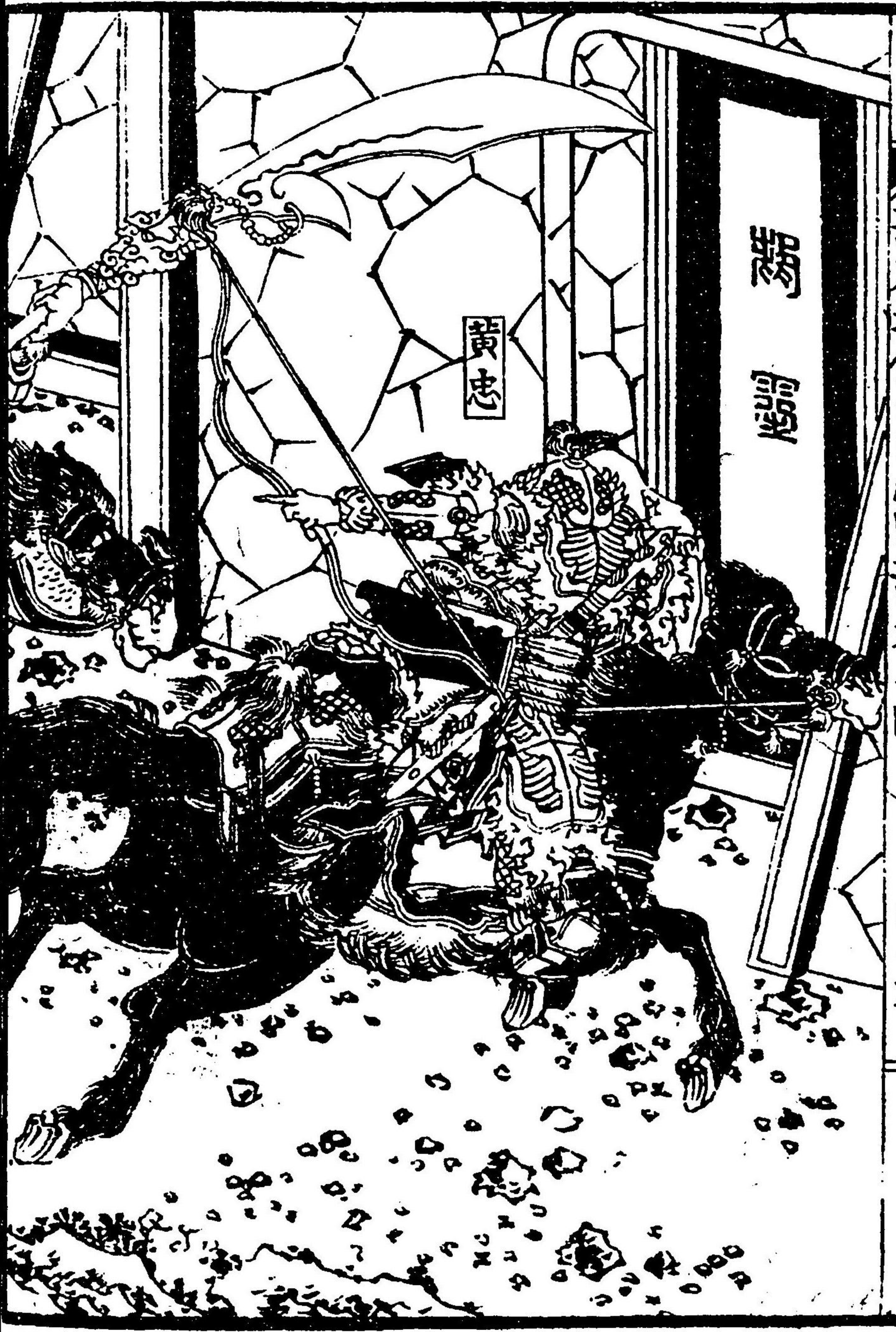
取しめ入りのぞむる女徳喜び即時張飛を荆及びへは
 関羽へ入る城を遣し女徳の喜びを告めし
 勇を喜びしとみれば孔明が白く荆
 雲桂陽城を取張飛武陵城を取とあましまし三郡の
 勢ありし長沙郡の太守韓玄の大臆病の大將とく
 したるも手下の二人の名將あり南陽の人とく黄忠
 字の藤介とく中郎將たりし韓
 玄が手は属し年を六十とく髪鬚とく白
 とく力つとく大ある刀を使い方夫不當の勇ありとあつた
 南の領神ありとく敵とく御辺りしとく
 ばよろしくとく勢を打立る人関羽が白く軍師ありとく他人

大将たいしょうとて、城しろと土つちと戦たたかひしむ。高たか槽さうのぞくぞく、関羽かんうの勝かちみのめく。城しろ近ちかくして、年とし老おいたる大将たいしょう門かどをひらいて、出でるぞとて、黄忠わうしゅうあつんとて、五百ごひやく余あまり騎きを、後のちよりあへり、カサハシ、さげく馬うまとあつち、来きるもの、黄忠わうしゅうのあつち、問とひ、黄忠わうしゅうきた入いりて、曰いく、汝なんぢも、黄忠わうしゅうの忠ちゆうの名なと、志しのあつち、あつち、来きる、関羽かんうの笑わらひて、曰いく、我われい、ま、の、来きり、汝なんぢが、鬚ひげ首くびと取とる、黄忠わうしゅう大おほに怒いかり、カサハシ、て、討うつり、も、戦たたかひ、百ひやく余あまり合あひ、と、勝かち負まけて、わつた、た、太守たいしゆう韓かん玄げん夫ふ倉くらのぞ、黄忠わうしゅうが、失あつち、と、怖おそむ、鐘かねを、あつち、軍ぐんと、收とり、黄忠わうしゅう志しのぞ、城しろ入いり、関羽かんうも、十じゅう里りの陣ちんと、黄忠わうしゅう年とし老おいたる、武ぶ藝げいと

よ、凡おほく、今日けふ百ひやく余あまり合あひの戦たたかひ、い、も、疎そある、と、い、は、ま、の、日ひ早はや天てん、兵へい糧りやうと、使つかへ、城しろ近ちかく、一ひとよ、守まもり、韓かん玄げん夫ふ倉くらのぞ、黄忠わうしゅう出でり、下した知しる、黄忠わうしゅう數かず百ひやく騎き、と、橋はしと、渡わたり、喊こゑと、造つくり、又また、関羽かんうと、馬うまと、戦たたかひ、六む十じゅう合あひ、と、勝かち負まけの色いろ、入いり、西にし軍ぐん、入いり、入いり、み、だ、を、喊こゑと、追おり、鼓つづみと、打うち、関羽かんう馬うまと、飛とり、逃にげる、黄忠わうしゅうの、追おり、け、後のちより、破やぶれ、関羽かんうの、聲こゑと、後のちより、黄忠わうしゅうが、馬うま前まへと、抗かへ、主ぬしの、地ち上うへと、左ひだりなり、関羽かんう刀やいばと、一ひと程ほどの、大おほ將しょうと、无な体たいの、伐きん、情あはれと、一ひと命いのちと、再また、馬うまの、代かり、と、勝かち負まけせ、と、い、

新編通鑑三國志四編卷之四

四十六



黄忠

關羽



關羽

黄忠
關羽が
盛の纒と
射の斬る

黄忠再三とひまじりてみたり。黄忠は病を疾くし、先きとて。大
 守韓玄と一刀を斬り、首をとりて馬に打のり、城を出て。関
 羽に降りしき。関羽大に喜び、ついで城の中へ入つて、民を安
 んど。使をわけて黄忠をよぬせしむる。黄忠は病を疾くし、出来な
 ず。関羽はあち早馬とよぶ。勝軍の中りて。玄徳は注進をさすの時
 玄徳へ孔明と馬とあらん。関羽が軍へ元あるとて、跡を追
 きたりし。入る。前よりあびたる青き旗をのこすとて。一門の
 鴉北より南へ指し、飛なり。三声啼くとて、さかひき。玄徳の
 曰く。まじ吉凶のうら。孔明馬上より占くとて曰く。長沙をぞ。味方
 へ属すと。又良大将と得たり。千の刺し喜びと報せんと
 て。もみ路をいそぎ、ゆるぎとて。千の刺しをいそいで。一人馬を鞭と

加へて飛かして、入をせ来り。関羽とて。長沙の城で。うら
 黄忠魏延亦尺く降人。出たりと告げ。玄徳のなり
 あり。喜びとて。長沙郡へ入る。合戦のかりを問ふ。刺
 黄忠が。もて。行て。程なく。礼とあ。ひ。黄忠は千の
 降参り。太守韓玄が。死を求む。城の東より。あ。ひ。玄
 徳法と出ると。民で治め。ひ。関羽又魏延と。あ。ひ
 明。勃然と。怒り。曰く。魏延元より。韓玄と。仇あり。之
 しく。身と。寄。二。日。も。主君。たの。め。た。る。人。を。勿。心。ち。殺。し。し。降
 大。来。た。ま。ま。大。ある。不。義。あり。熟。人の。戒。を。守。り。首。を。斬。り。し。と
 武。士。を。出。し。し。玄。徳。を。う。め。と。て。命。を。請。

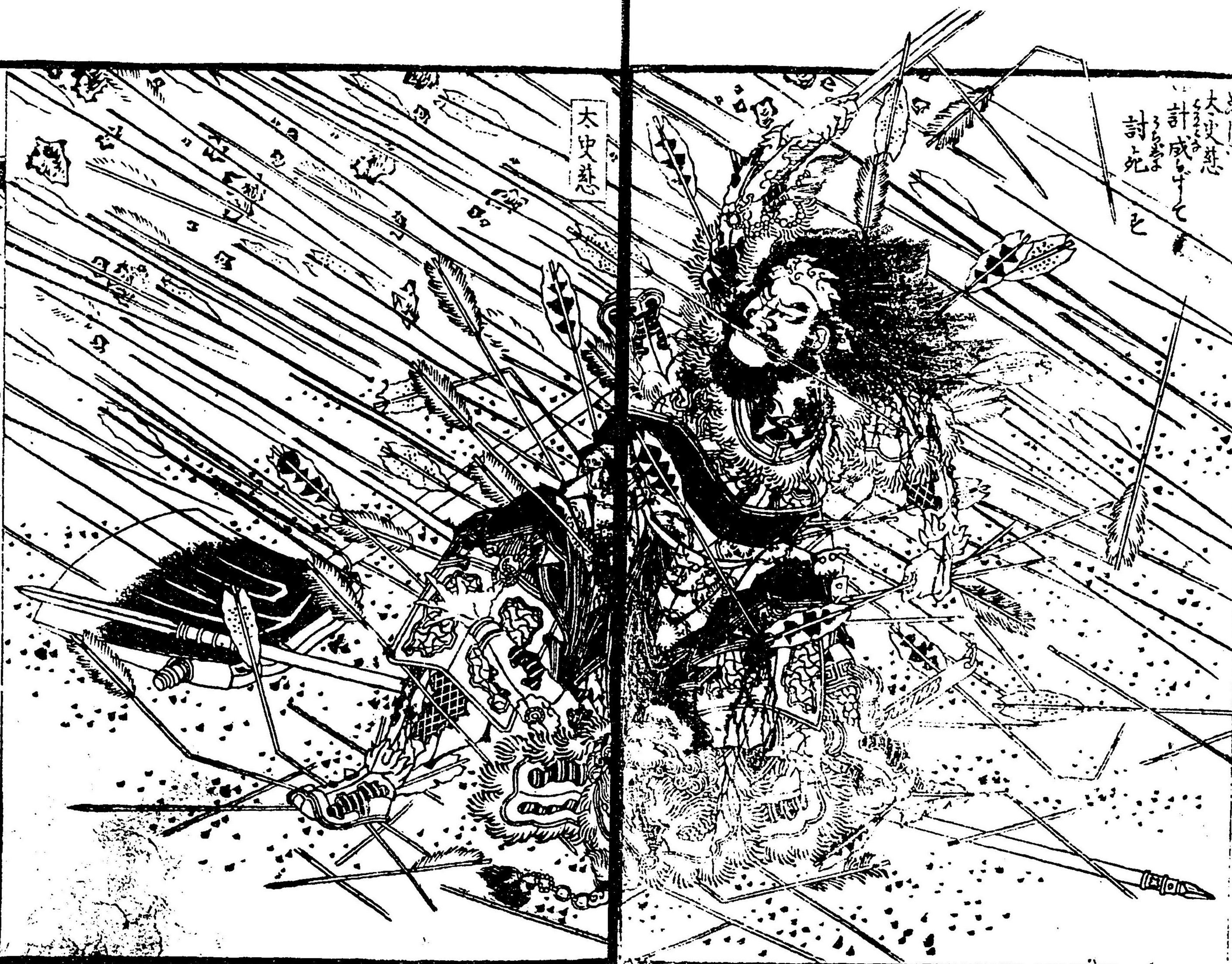
るある。張遼が方より戦書を下し。明日一勝負せんといひ
送けし。孫權怒て曰く。憎き奴が所為。れ今日味方の程普
が大勢を引くを加りたるをきひて。明日一勝負せんといひて
くまづのふれつて。今までの合戦で嘲弄する。そ
その義ある。明日の合戦の程普が生手。一人も用ひざる。か
麾下の勢をとりて引く。さうさく手柄をあらさん。その夜
の五更の兵糧を使ひ。程普が生手の陣屋をまひら。合
涇の城を攻くる。城中も敵の兵をきたさん。討て出てた。うへ
とく。尽く。出ける。ま。辰の時。ふ。西軍は。生合な
ひ。陣。より。ひ。孫權の金の盛。朝日。や。賈
華。より。入る。大将。左右。入。三通の鼓。打。夫。合の。鏑。と

射。け。魏の陣中。門旗。ひ。張遼中央。馬。を。と
せ。左。李典。右。樂進。甲。志。張遼
ま。孫權。討。孫權。後。一人。大将。鎗。提
げ。飛。生。人。大將。太史慈。あり。
張遼。馬。入。二人。火。戦。八。十。余。合。ま。
い。勝負。決。又。魏の陣。樂進。李典。大音
あ。金の盛。著。呉の孫權。も。の
首。取。赤壁。討。八。十。三。万。人。の。伏。報。
あ。刀。真。横。様。け。孫。權。の。勢。ひ
散。然。雷。光。の。激。似。孫。權。が。左。右。の
宋。護。賈。華。戦。ひ。出。け。打。け。を

魏志四續卷之四

大史慈
計成して
討死す

大史慈



るものあり。卒に張遼が馬飼と兄弟あり。まきよの今夜
 城中に火の手とめげく合図とあり。張遼が首を取
 んとの入。孫がくちも某に五千余騎を借り入。時刻を合
 城中に攻入して宋謙が伏て報せんとし。孫權が曰く。そ
 のや定の今何よりある。太史慈が曰く。さきよ合戦城へ志の
 たり。諸君望が曰く。張遼の二男の男めめらむ。智深く計をや
 うあがむ。用いませい。さきよ。さきよ。無用あり。太史慈が曰く。城
 中の勢。今日の軍。勝るま。さきよ。さきよ。油断せん。内
 外より孫破ら。忽ち城へ乗取らんと。再三志の。さきよ。孫
 孫權もんの内。今日大将と討た。さきよ。口借く。さきよ。の
 うらみと報せんと。卒に五千余騎と。さきよ。太史慈が

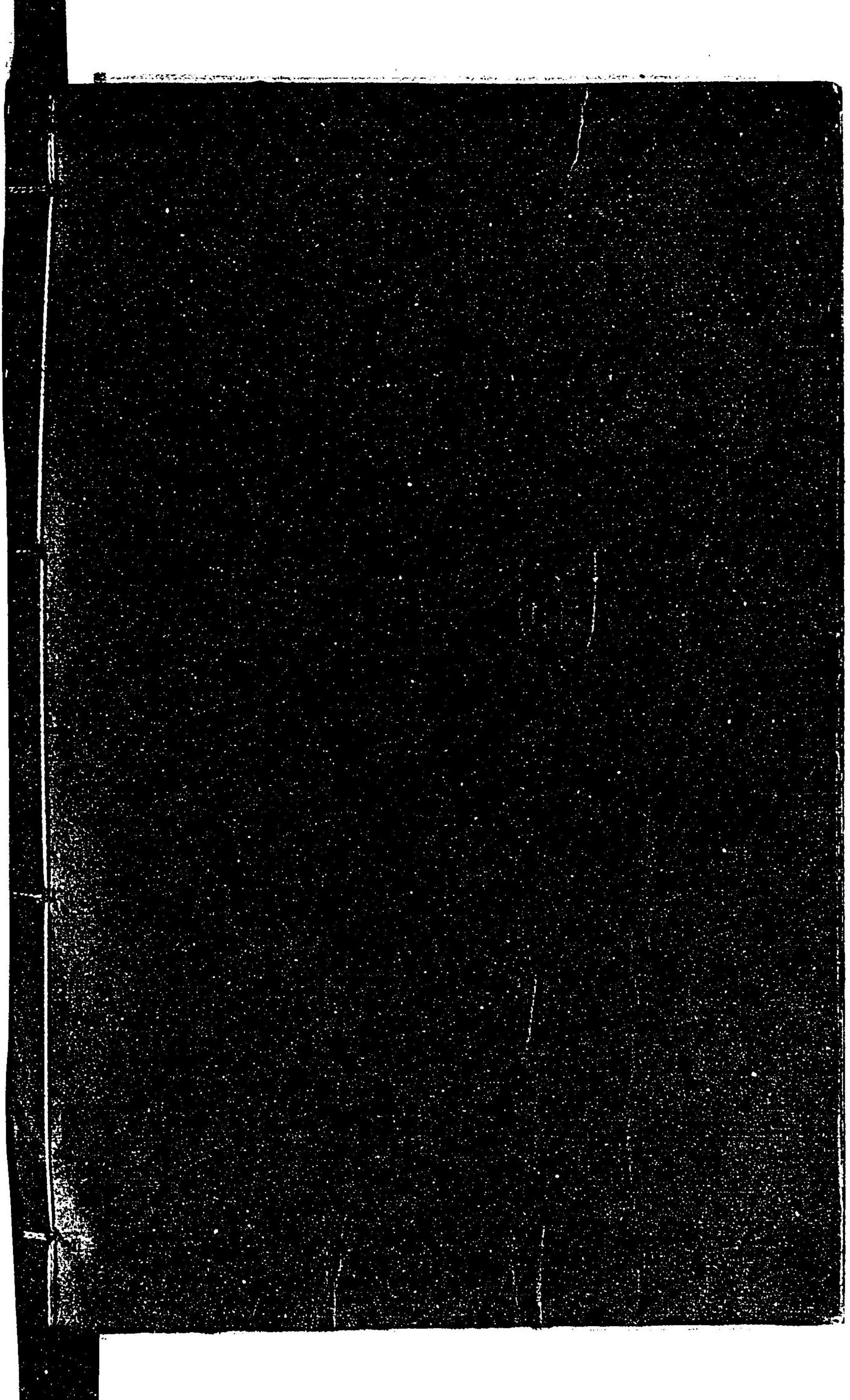
けい。さきよ。さきよ。定む。さきよ。太史慈と。同郷の好め。張
 遼が。さきよ。さきよ。城の中へ志の。馬飼と兄弟あり。人
 卒に。さきよ。二人一所。さきよ。合戦。太史慈將軍と合図と
 さきよ。今夜。さきよ。さきよ。計と。さきよ。さきよ。さきよ。人
 さきよ。馬飼と兄弟あり。さきよ。本陣と。さきよ。さきよ。人
 夜中。さきよ。さきよ。さきよ。さきよ。さきよ。さきよ。さきよ。人
 け走り。さきよ。さきよ。さきよ。さきよ。さきよ。さきよ。さきよ。人
 上と下へと騒動せん。さきよ。さきよ。張遼と。さきよ。さきよ。門
 ひく走り。さきよ。さきよ。さきよ。さきよ。さきよ。さきよ。さきよ。人
 日の音と待居たり。張遼。さきよ。さきよ。さきよ。さきよ。さきよ。さきよ。人
 て。諸軍と。思賞と。さきよ。今夜。さきよ。さきよ。甲と。叩く。孫

真先^{まゝ}の兵^{へい}と下^{した}知^ちく入^いりて城^{しろ}の上^{うへ}より
まゝと一^{ひと}声^{こゑ}の鉄^{てつ}炮^{ぱう}とあるまゝととそれゆゑに夫^{おつ}倉^{くら}の上^{うへ}堀^{ほり}の陰^{かげ}よ
り矢^やと射^いると雨^{あめ}のどく大^{おほ}木^き大^{おほ}石^{いし}とあびりけり太^{おほ}史^し慈^じ
まゝと志^しのぞたつる全身^{ぜんしん}の射^い立^たたつた夫^{おつ}の妻^{つま}の毛^けすり
まゝと志^しげり後^{のち}より李^り典^{てん}樂^{らく}進^{しん}射^{しや}て出^いるまゝ呉^ごの勢^{せい}残^{ざん}少^{せう}よ
あつたまゝと走^{はし}りける呉^ごの陣^{ちん}に近^{ちか}くあつて陸^{りく}遜^{そん}董^{とう}襲^{しゆ}
兵^{へい}とまゝとまきたり城^{しろ}中^{ちゆう}の勢^{せい}と追^お回^ひりて呉^ご主^{しゆ}孫^{そん}權^{けん}大^{おほ}後^ご
悔^{くわい}太^{おほ}史^し慈^じが痛^{いた}手^てと負^おかるととまゝと志^しげりまゝと
まゝと張^{ちやう}昭^{しやう}が軍^{ぐん}と収^おめりて回^{まわ}りて孫^{そん}權^{けん}の志^し
たがひ陣^{ちん}屋^やとまゝとと取^と乘^せ南^{なん}徐^{しゆ}の潤^{じゆん}カまを回^{まわ}りたれ
太^{おほ}史^し慈^じが病^{やまひ}とあつた危^{あや}しきとまゝと張^{ちやう}昭^{しやう}と遣^つく安^あ否^ひ否^ひ

問^とあり太^{おほ}史^し慈^じ大^{おほ}まきけひ太^{おほ}史^し夫^ふの士^しにまがまが世^よに生^な
れと三^{さん}尺^{せき}の劍^{けん}と帯^{おび}と天子^{てんし}の階^{かゐ}に上^あるまゝと志^しと不平^{ふへい}ま
遂^{つい}まゝとまゝと死^しするまゝと終^{はつ}り忽^{たち}然^{ぜん}とて亡^なる
たのまゝと年^{ねん}四^し十^{じゆ}一^{いつ}歳^{さい}あり孫^{そん}權^{けん}深^{しん}くあげまゝと南^{なん}徐^{しゆ}
の北^{ほく}固^こ山^{さん}の下^{した}に葬^{むすぶ}りその子^こ太^{おほ}史^し亨^{かう}とあつたまゝと養^{やしやう}る

繪本通俗三國志四編卷之四終

122
74
28



089236-033-0

122-28

繪本通俗三国志

葛飾 戴斗/画

〔刊年不明〕

DBM-0432



122
74
28

繪本通俗三國志

田
編
田

第
一
回

國

國

出
尚

國

旗